

つかむ

調べる

まとめる

深める

～単元を貫く問題意識の形成を図る、「条約改正」導入部の活動～

1. 小単元名『新しい時代の幕あけ』

(教科書：『小学社会 6 上』 p.88～104／学習指導要領：内容（1）キ）

2. 小単元の目標

黒船の来航，明治維新，文明開化などについて調べ，政府は欧米の文化を取り入れつつ諸改革を行ったことや，この当時の我が国の近代化が進んでいった様子がわかる。

3. 小単元の評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・資料活用の 技能	社会的事象についての 知識・理解
明治維新後，我が国の近代化が進められたことや，憲法が發布されたことに関心をもち，自分たちの生活と関連付けて考えるなどして意欲的に調べている。	欧米の文化を取り入れ，近代化を進めたことによる当時の人々の生活の変化について，学習問題や学習計画を考え，表現している。	肖像画や，錦絵，当時の人物のエピソードや資料などから，近代化が進む我が国の様子について調べ，まとめている。	政府は廃藩置県や四民平等などの諸改革を行い，欧米の文化を取り入れながら新たな政治や社会の仕組みを整えていったことを理解している。

4. 指導にあたって

(1) 児童の実態

戦国時代や江戸時代の学習に興味をもって取り組んできた子どもでも，武士による政治の時代が終わるということをイメージするのは容易なことではない。また，事象に関わる用語や歴史上の人物が多いと，文字を追っていくだけで精一杯になってしまうおそれもある。本単元では，それぞれの社会事象のつながりを意識し，関連付けながら学習していくことが重要であると考えた。

(2) 教材について

本単元では，武士による政治が行われていた時代から大きく転換する時期について学ぶ。前単元の学習で，子どもは，蘭学など新しい知識を外国から取り入れる必要性が高まっていると感じている。その点を踏まえ，本単元の導入では，黒船来航の場면을クローズアップし，日本と欧米の国力の違いに着目させることで，不平等条約をどのようにして改正へと導くのか，という単元を貫く問題意識や学習意欲が形成・喚起されると考えた。そして，「近代化を図る必要がある」という漠然とした理解ではなく，「国力を高めるためにどんなことが必要か」を具体化に調べ，考えることを通して，日本の近代化の過程に対する理解が深まるようにしたい。

(3) 指導上の工夫・留意点

導入部の黒船来航の学習場面で形成された問題意識と喚起された学習意欲を，単元を貫く軸にして，そのあとの各時で取りあげる歴史的な事象（政治の仕組みや社会の様子の変化）が，条約改正と

どのように関わりがあるのかを確かめながら学習を進めていくようにした。

5. 小単元の指導（総時数 8 時間）

時数	ねらい	○学習活動 ☆内容
① (つかむ)	人々がペリーの来航をどのように受け止めていたのかを考えるとともに、不平等条約を結んだことがどんな影響を及ぼすかに興味をもつことができるようにする。	○ペリー来航の資料を読み取り、船の大きさや艦隊の人数などの比較から学習問題をつかむ。 ☆ペリー来航や外国の威力に日本人は驚いたこと、日本の力が外国よりも劣っているから不平等な条約が結ばれてしまったこと。
① (調べる)	不平等条約の影響によって国内が不安定になり、幕府の力が低下していったことがわかる。	○百姓一揆や打ちこわしと、その背景を調べることで、新しい政府の必要性を理解する。 ☆不平等条約締結をきっかけに幕府が衰退したこと。
① (調べる)	条約改正に向けて新しい政府が目指した政治はどのようなものかを考え、社会の仕組みが整っていく様子を調べることができる。	○使節団や留学生の資料をもとに、新しい政府の目指した政治の考え、新しい国の基盤づくりの様子をつかむ。 ☆新しい政府の仕組みは欧米諸国を手本に整えられていったこと。
① (調べる)	政府の行った様々な改革について調べ、それらは何のための、どのような改革だったのかがわかる。	○富国強兵政策のもとに行われた諸改革を調べる。 ☆地租改正によって財源を安定させようとしたこと、徴兵令により兵力を確保したこと、殖産興業により外貨獲得を目指したこと。
① (調べる)	様々な改革により人々の暮らしがどのように変化したのかを調べ、人々の暮らしも欧米諸国のように変化していったことがわかる。	○文明開化の様子を衣・食・住の視点や学問の視点から調べ、これまでの生活との変化に気付く。 ☆欧米諸国の影響から、人々の生活の様子が西洋風に変わっていったこと。
① (調べる)	明治維新が進むことで、国民の政治に対する関心が高まり、自由民権運動が全国へと広がっていったことがわかる。	○自由民権運動の広がる様子を調べることで国会開設を求める人々の願いがどのようなものかを考える。 ☆国民の声を聞いて政治を進めるべきだという考えから自由民権運動が広がっていったこと。
① (調べる)	大日本帝国憲法の制定により主権が天皇にあることや、言論の自由や選挙権が法律の範囲内で認められたことがわかる。	○大日本帝国憲法の発布式の様子や憲法の特徴を調べ、日本の政治の仕組みが近代化したことの影響を考える。 ☆大日本帝国憲法の制定により近代国家の仕組みが整ったこと。
① (まとめる)	これまで学習してきた様々な改革が不平等条約の改正につながるかどうかを振り返ることができる。	○不平等条約改正への道のりがどの程度達成されたのかという視点からこれまでの学習内容を振り返り、まとめる。 ☆ノートや新聞などにまとめ、振り返ること。

6. 本時の指導（第1／8時）

（1）本時のねらい

ペリー来航の様子に関わる資料を読み取る活動から、人々がペリーの来航をどのように受け止めていたのかを考えるとともに、不平等条約の締結が及ぼす影響について興味をもつことができる。

（2）本時における考え合い表現し合う活動と指導の留意点

導入に用いる資料は、教科書に掲載されている絵画（「ペリー艦隊と防備を固める人々」）である。この資料を細部まで読み取り、気づいたことを発言し合うことで、ペリー来航の様子だけでなく、日本と外国の力の差ということに気づかせる。具体的には、外国船は蒸気が動力になっているということ、日本の船とは大きさが格段に違うということをとらえさせる。導入資料の読み取りを行ったあと、「幕府がすぐに開国に踏み切れなかったのは、なぜだろう」と問いかけ、その理由について考え合う。この場面では、**追究に生かす資料**を提示して、動力、装備、乗組員数などを比較させる。

最後に、ペリーの肖像画を提示し、日本人が抱いたペリーに対するイメージについて話し合う。それらの活動を通して、**単元を貫く問題意識や学習意欲の形成と喚起を図る。**

（3）本時の展開

時配	○学習活動 T：発問 C：児童の反応	◎資料 ◇留意点 ◆評価
10	<p>○前時までにはわかったことを振り返る。</p> <p>T：江戸時代の人々の様子からどんなことを学習してきましたか。</p> <p>C：新しい文化や学問が発達した。</p> <p>C：寺子屋や藩校などが開かれ、蘭学など西洋の学問にも関心がもたれた。</p> <p>T：1853年の夏、アメリカ合衆国の使節ペリーが4隻の軍艦を率いて浦賀沖に現れました。その時の様子を描いた浮世絵があります。どんなことがわかりますか。</p> <p>C：大きな船が描かれている。</p> <p>C：陸では大騒ぎになっている。</p> <p>C：大砲が船に向けられている。</p>	<p>◇前単元の学習を振り返り、人々の目が国外に向き始めていたことを確認する。</p> <p>◎教科書 p.90 資料ア</p>
20	<p>T：ペリーは日本に開国を求めました。幕府は開国することを決めることができずにいました。幕府が開国に踏み切れずにいた理由はなぜかを考えてみよう。</p> <p>○開国に踏み切れなかった理由を個別に考え、ノートに書く。</p> <p>C：外国の力が強いから日本が占領されてしまうのではないかと考えた。</p> <p>C：外国の武力に幕府の力が敵わないのではないか。</p>	<p>◇教科書の記述を参考にし、幕府が開国か鎖国かを決めることができずにいたことを確かめ、その理由を考える。</p>

<p>10</p>	<p>C: これまで続けてきた鎖国を簡単にやめてしまうと、幕府の力が弱くなっていると思われるのではないか。</p> <p>○資料からわかることを確かめる。</p> <p>T: 資料に描かれていた船について調べてみよう。</p> <p>ペリーの乗ってきた船はサスケハナ号。2450 トンで300 人乗り。蒸気船で大砲を搭載していた。日本の船は千石船が 150 トンで 15 人乗り。</p> <p>C: 船の大きさにびっくりすると思う。</p> <p>C: こんなに違いがあるなら外国に逆らえないと思ってしまふのではないか。</p> <p>○不平等条約が締結されたことと、条約の内容を確かめる。</p> <p>T: アメリカの武力をおそれて幕府は条約を結び、開国に踏み切りました。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>1854 年 日米和親条約</p> <p>1858 年 日米修好通商条約</p> </div> <p>C: 不平等な条約はいやだね。</p> <p>C: どうにかして条約改正をしたいな。</p> <p>○日本人の描いたペリーの肖像画を確かめる。</p> <p>C: 武力を背景に開国を迫るのだから、恐ろしいと思ったはずだね。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>日本は、どのようにして不平等条約を改正していったのだろう。</p> </div>	<p>◎ペリーの乗ってきた軍艦のことが詳しく書かれている資料を用意して提示する。</p> <p>◇日本の船と比較する。</p> <p>◇不平等条約が結ばれたことを伝え、どんな条約だったかを確かめる。</p> <p>◎ペリーの肖像画</p>
<p>5</p>	<p>○調べる計画を立て、ノートにまとめ、交流する。</p> <p>T: どうなったら条約を改正できるだろうか。</p> <p>C: 日本が力をつけていかないと条約を改正できないね。</p> <p>C: いろいろな技術力をつけないといけないね。</p> <p>C: 蘭学などの新しい学問のように、外国にならっていくことが必要なのではないかな。</p>	<p>◆どのようなことに取り組めば不平等条約を改正していくことができるかを考え、それについて調べる計画を具体的に立てている。</p> <p>(思・判・表／ノート)</p>